

活動報告

団体名	公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会
活動名	令和元年台風 19 号災害の被災者のための救援事業
活動期間	2019/10/16 ~ 2020/3/31
活動の成果	<p>■調査・物資配布（避難所における基本的な人道ニーズへの支援）：効率よく避難所を回るため弊会と関係性があり、ボランティア活動を模索している地元団体に、被災地に入る前に連絡を取り一緒に避難所を回っていただいた。これにより過去の反省点でもあった、慣れない地域での時間のかかる運転なども改善できた。また地元青年会とも顔の見える関係が構築され、その後の支援にもスムーズに関わっていただくことができた。</p> <p>■避難所内での子どもの居場所づくり（子どもの心のケア）：学習スペースが狭いことが課題であったが、小学生と中高生で時間を分けて利用するなどの工夫を行い、子どもたちが均等に使えるようにした。狭いスペースでも多くの子どもたちを受入れすることが可能となった。</p> <p>■避難所内での傾聴サロン活動について。傾聴の聞き手側に男性が多くなることから、長野県第一宗務所婦人会にも声がけし、都度参加いただいた。これにより支援を行う側のジェンダーバランスを整えることができた。</p> <p>■仮設住宅談話室及び長沼地域交流ハウスの環境整備（被災者の集える場づくりを目的とした支援）：備品支援を始める前にジャパン・プラットフォームを通し長野市の担当部署と数回話し合いを行い支援する備品の重複がないよう心がけた。</p> <p>■長沼地区での集いの場づくり（被災者の集える場づくり及び心のケアを目的とした支援）：活動の中で穂保支援チームにも傾聴サロンの意義などを理解していただき、1月以降は炊出しを行わない形で長沼交流ハウスでの傾聴サロンを週1回実施協力いただいた。中長期的な取り組みが望まれるため、活動初期から地域にて協力、あるいは主体的に協力してもらえる団体・個人との連携を意識し、ゆくゆくはそれらの人々の手によって運営されていくことを目標に活動を続けた。結果的に新型コロナウイルスの影響で2月末からサロン活動は延期になっているが、穂保支援チームと曹洞宗長野県第一宗務所青年会を繋げることができ、今後も活動が長く続くようにサポートを行うことができた。</p>
寄付者へのメッセージ	<p>全国の皆様から頂いた温かいご寄付を通じた助成金を頂き、誠にありがとうございます。いま世界中で新型コロナウイルスの影響が出ています。被災地でもボランティア活動の自粛が進み、活動している団体もほとんどありません。しかし、被災者にとって何が良いのか常に考えながら今後も被災地支援に関わっていきたいと思います。今後とも変わらぬご支援のほどよろしくお願い申し上げます。</p>

(活動のようす)